

2010.9.22

プレスリリース

「内外の化繊工業の動向」

2010年 第2四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その
「概要」をお届けします。
ご高覧下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会
(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

概 要

(2010年第2四半期)

2010年第2四半期のわが国の景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤は整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然厳しい状況にあった。先行きについては、当面は雇用情勢に不安は残るものの海外経済の改善や各種政策効果を背景に、企業収益の改善が続く中、自律的回復が期待されている。

化繊景況は、自動車関連需要を軸に用途は限定されるものの持ち直しが見られ、生産は回復している。しかし予断を許さない状況には変わらない。

国 内

- 1) 第2四半期の繊維景況は、衣料用では百貨店衣料品売上高が前年比5.4%減、チェーンストアが3.4%減と前年の2桁の減少から改善しているものの、引き続き消費者の節約志向、中高級品離れにより厳しかった。インテリア用は、カーテン、カーペット関連においてコントラクト向けは年度末需要の反動により荷動き低調、家庭向けはマンションの発売戸数は堅調であったが(首都圏;前年比31.4%増、近畿圏;15.8%増)、新設住宅着工件数は弱含み横ばいと化繊の需要には結びつかなかった。カーシートは乗用車生産の回復により順調な荷動きとなった。資材用は、自動車関連ではシートベルト・エアバッグが堅調に推移、タイヤコードもポリエステルを中心に回復が見られる。また建築関連は、年度末需要の反動が見られたが、民間投資は非製造業の牽引により回復基調、公共投資は引き続き低調であった。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体は前年比3.0%増、前期比1.9%増、化繊は前年比33.9%増、前期比11.1%増とともに増加したが、紡績は前年比2.6%増、前期比1.7%増と、増加幅に差はあるもののいずれも前年比、前期比ともに増加した。一方在庫指数(期末)は、繊維工業が前年比14.3%減、化繊25.3%減、紡績27.8%減といずれも2桁の減少となった。(生産、在庫とも指数ベースの比較)
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで21.9億ドル・前年比18.7%増、円ベースで2,019億円・13.0%増といずれも増加した。形態別(ドルベース)では、繊維原料・26.2%増、糸類・43.3%増、織物類・4.7%増、二次製品・22.9%増と織物類を除き2桁の増加となった。仕向地別では、中国は8.4億ドル・13.1%増と全体の38%を占めている。タイ・インドネシア・マレーシア向けの大幅増によりアセアン向けが3.8億ドル・32.1%増と大幅に増加した。この他にも欧州(2.2億ドル・32.6%増)、米国(1.8億ドル・36.3%増)、香港(1.9億ドル・14.1%増)、韓国(9.8億ドル・18.9%増)と主要国向けは増加した。

4) 繊維品輸入は、ドルベースで 75.1 億ドル、前年比 8.8%増、円ベースでは 6,920 億円・2.8%増といずれも増加した。形態別(ドルベース)では、繊維原料は 56.6%増、糸類は 41.7%増、織物は 16.3%増、二次製品は 6.7%増といずれも増加した。仕出地別では、全体の 76%を占める中国が 57.0 億ドル・6.4%増、タイ(14.7%増)、インドネシア(34.5%増)、ベトナム(11.3%増)の増加によりアセアンからは 7.5 億ドル・18.5%増。欧州は主力のイタリアが 13.7%減と低迷したため、3.9 億ドル・3.4%減。韓国 1.6 億ドル(24.2%増)、米国 1.2 億ドル(28.3%増)であった。

繊維品輸出・輸入実績

| 項目 | 単位 | 09.4-6 | 10.1-3 | 10.4-6 | 前年比(%) | 前期比(%) |
|-------|------|-----------|-----------|-----------|--------|--------|
| 輸出 | 千ドル | 1,848,361 | 1,970,271 | 2,194,899 | 18.7 | 11.4 |
| 計 | 億円 | 179,718 | 178,598 | 201,879 | 12.3 | 13.0 |
| 繊維原料 | 千ドル | 281,715 | 343,865 | 355,489 | 26.2 | 3.4 |
| 糸類 | 千ドル | 188,928 | 264,807 | 270,698 | 43.3 | 2.2 |
| 織物類 | 千ドル | 681,550 | 580,908 | 713,366 | 4.7 | 22.8 |
| 二次製品 | 千ドル | 696,167 | 780,691 | 855,346 | 22.9 | 9.6 |
| 輸入 | 千ドル | 6,904,859 | 7,474,175 | 7,510,796 | 8.8 | 0.5 |
| 計 | 億円 | 672,981 | 677,643 | 692,012 | 2.8 | 2.1 |
| 繊維原料 | 千ドル | 93,108 | 125,674 | 145,806 | 56.6 | 16.0 |
| 糸類 | 千ドル | 186,395 | 234,011 | 264,177 | 41.7 | 12.9 |
| 織物類 | 千ドル | 244,085 | 246,626 | 283,969 | 16.3 | 15.1 |
| 二次製品 | 千ドル | 6,386,585 | 6,867,863 | 6,816,846 | 6.7 | -0.7 |
| 衣類 | 千ドル | 5,369,629 | 5,793,740 | 5,685,495 | 5.9 | -1.9 |
| 輸出レート | 円/ドル | 97.2 | 90.6 | 92.0 | -5.4 | 1.5 |
| 輸入レート | 円/ドル | 97.5 | 90.7 | 92.1 | -5.5 | 1.6 |

(出所)財務省

5) 化繊生産は 256,765 トン、前年比 24.4%、前期比 11.9%増と前年比・前期比ともに増加するなど持ち直しており、一昨年の同期比 90%の水準に戻った。セルロース繊維は 44,519 トン・前年比 15.7%増、前期比 5.2%増。合繊は 212,246 トン・前年比 26.4%増、前期比 13.4%増であった。期末在庫は 89,506 トン、セルロース繊維、合繊ともに前年比では減少(22.1%減)したが、前期比増加(4.6%増)した。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は 15.8 万トン・前年比 15.3%増。レーヨン S は主力米国向けの減少により 8.2%減(4,017 トン)となったが、ナイロン F 48%増、ポリエステル F 39.3%増、同 S 8.6%増、アクリル S は 2.4%増といずれも増加した。化繊織物(面積ベース)は 1.1%減。ナイロン F は 37.0%増と前期に続き大幅に増加、一方ポリ

エステルFは10.0%減、同Sも6.3%減と不振であった。また化繊不織布（重量ベース）は22.2%増と堅調に推移している。

化繊輸入（繊維原料～二次製品）は27.2万トンを25.6%増となった。繊維原料（1.4万トン・46.2%増）、糸類（4.7万トン・55.1%増）、織物類（1.4億㎡・22.6%増）、二次製品（18.9万トン・18.8%増、うち衣類8.6万トン・11.4%増）いずれも前年比増加した。

化学繊維の主要指標

| 項目 | 単位 | 09.4-6 | 10.1-3 | 10.4-6 | 前年比(%) | 前期比(%) |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 化繊生産 | 千トン | 206 | 230 | 257 | 24.4 | 11.9 |
| セルロース | " | 38 | 42 | 45 | 15.7 | 5.2 |
| 合 織 | " | 168 | 187 | 212 | 26.4 | 13.4 |
| 化繊在庫 | " | 115 | 86 | 90 | -22.1 | 4.6 |
| セルロース | " | 18 | 15 | 17 | -7.6 | 11.0 |
| 合 織 | " | 97 | 70 | 73 | -24.8 | 3.3 |
| 化繊輸出 | 千トン | 137 | 151 | 158 | 15.3 | 4.4 |
| | 100万ドル | 1,154 | 1,221 | 1,369 | 18.6 | 12.2 |
| | 億円 | 1,122 | 1,106 | 1,259 | 12.2 | 13.8 |
| 化繊輸入 | 千トン | 217 | 263 | 272 | 25.6 | 3.4 |
| | 100万ドル | 2,301 | 2,872 | 2,779 | 20.8 | -3.2 |
| | 億円 | 2,243 | 2,604 | 2,560 | 14.2 | -1.7 |

（出所）経済産業省、財務省

（注）在庫は生産者在庫で各期末

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

ポリエステルF：生産は47,478トン・前年比31.9%増。織物生産は9,192万㎡・同1%減。衣料用は、百貨店における婦人服販売が、消費者のファッション性を求める動きから減少幅は縮小しているものの、厳しい状況が続いている。そのような中、ダウンジャケット、欧州向けのアウトドア用高密度織物は日本品への要求が強く堅調に推移。競泳用水着は国際水泳連盟の新規定でテキスタイル製に限定されたこともあり期待が出来る。非衣料用は、自動車関連用途が前期は在庫積み増しもあり総じて堅調であったが、今期は用途によって明暗が表れた。タイヤコードは自動車生産の回復、好調なタイヤ輸出を背景に、バランスはタイトであった。カーシートは在庫積み増しが一段落し、今期は調整に入った。また、カーテンはコントラクト向けが年度末需要の終了一段落。フィラメント輸出は強力糸の回復により6,810トン・同39.3%増。同輸入は2万5,242トン・同71.9%増。

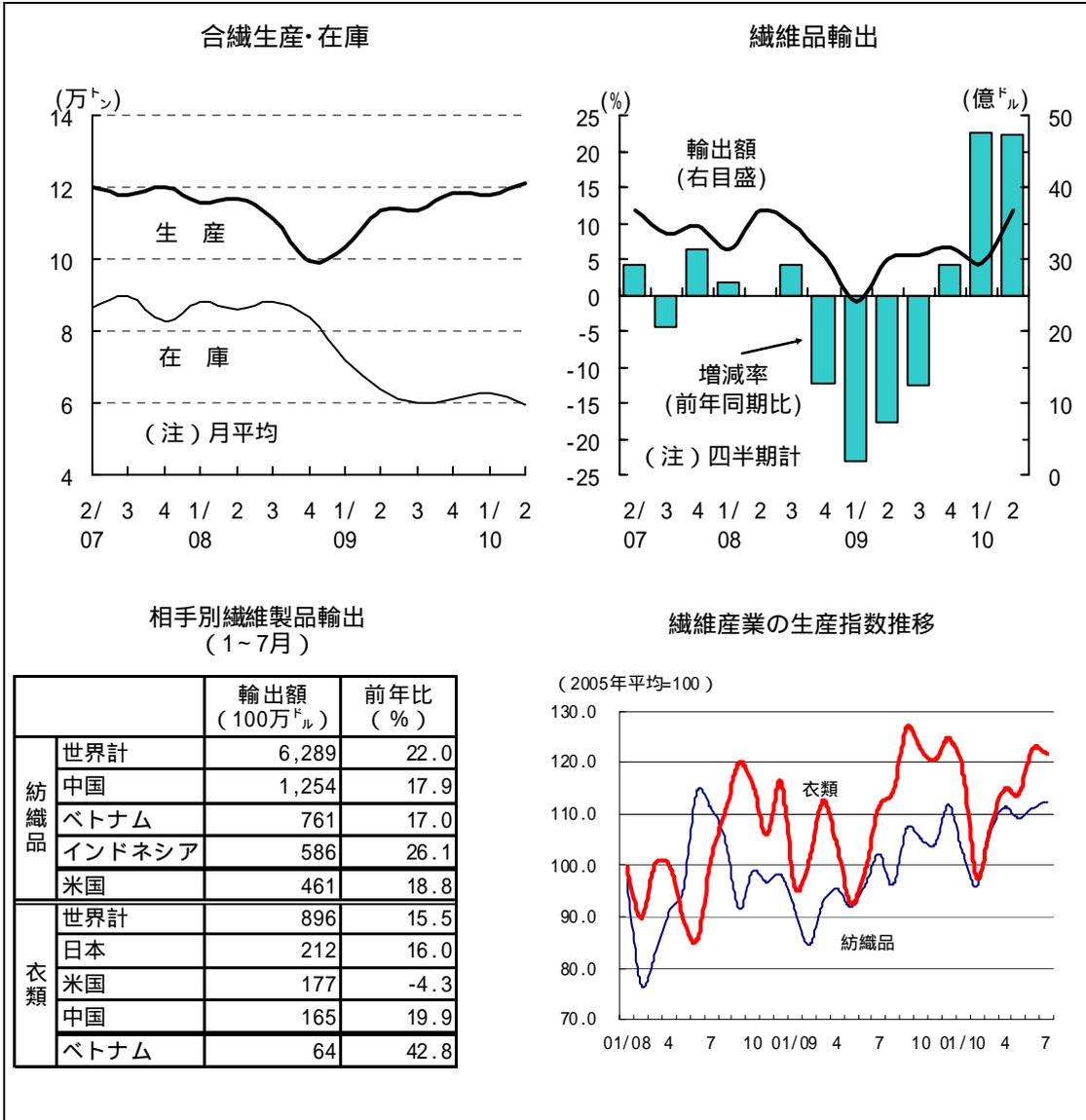
ポリエステルS：生産は4万152トン・前年比5%増。紡績用は引き続き厳しい状況が続いている。綿混は動きが出てきたものの輸入糸が中心。純糸は資材用で引き合いが増え

ているが、中東向け間輸は動きが見られない。製綿用は、寝具関連は製品の低価格化により、国産原綿の需要は後退している。不織布用では、衛材は紙オムツ向けが安定している。ここには中国の富裕層が日本製の紙おむつを好んで購入しているという動きもある。生活資材は昨年インフルエンザ特需の反動から、ウェットティッシュ、ワイパー類は減少、パップ剤は裏シーズンであるが堅調に推移。車両資材は順調。エコカー減税終了後の動きが懸念される。産業資材はフィルター関係が堅調。湿式不織布は水処理関係用途を中心に順調に推移。ステーブル輸出は、同9%増の1万27ト、米国、インドネシア、タイ、ベルギー・ドイツ向けが増加、同輸入は28%増の5,930ト、中国・韓国を中心に高水準。

ナイロンF：生産は2万2,874ト・前年比52.2%増。織物生産は2,811万㎡・同14.8%増と9期ぶりに前年を上回った。衣料用は、主力の靴下関連で、レギンス・トレンカの店頭販売は好調を持続、素材もナイロンからポリエステル、アクリル、レーヨンなどへ拡がりが見られる。タイツはレギンス・トレンカに押され低調。ハイテントトリコットは中国における日本品への要求が強く、中国向け輸出が堅調に推移。高密度織物は、国内ダウンジャケット向けまた、欧州向けアウトドア用が好調で。非衣料用は、タイヤコードではキャッププライ向けは自動車の生産回復や好調なタイヤ輸出により堅調であったが、バイアスタイヤ向けは回復が遅れている。エアバッグは堅調。船舶係留用ロープは新造船用が堅調。タイルカーペットは新築物件需要が乏しく低迷、また自動車用も高級車向けが主流のため苦戦した。フィラメント輸出はタイ、フィリピン向けのエアバッグ用の回復により、4,801ト・同48.0%増。輸入は、強力糸や衣料用定番糸などの増加により6,896ト・同46.1%増。

アクリルS：生産は3万8,282ト・前年比21.1%増、4期連続で前年を、また紡績糸生産も3,200ト・同10.1%増と2期連続で前年を上回った。国内向けは、保温肌着向け投入がピークを迎え前年を上回る勢いであった。ここに来て一部で慎重な見方も出ている。セーターは肌着の上にダウンジャケットを着用するなどトレンドの変化による着用頻度の減少により苦戦。靴下用は、ポリエステル長繊維製の中国品に侵食され厳しい中、レッグウォーマーなどでアクリル使いが増えている。建寝装分野では、ポリエステル長繊維製の中国品の品質向上、またカーペットも機能品も含めて安価なポリエステルやポリプロピレンへの代替が進んでいる。そのような中、毛布やピース・ラグなどで「暖かさ」を見直す動きが出始めている。ステーブル輸出は、最大の中国向けは1万8,640ト・同1.0%増。ここに来て、中国国内向けのセーター、インナー、コートの際まわり・袖口、ホームテキスタイル用などに日本品が使用される動きがある。インドネシアは3,557ト・同12.7%減、イランは1,031ト・同62.1%減と減少したが、アフリカ諸国は5,104ト・同44.6%増、インド1,175ト・同65.3%増と好調であった。

7) 韓国



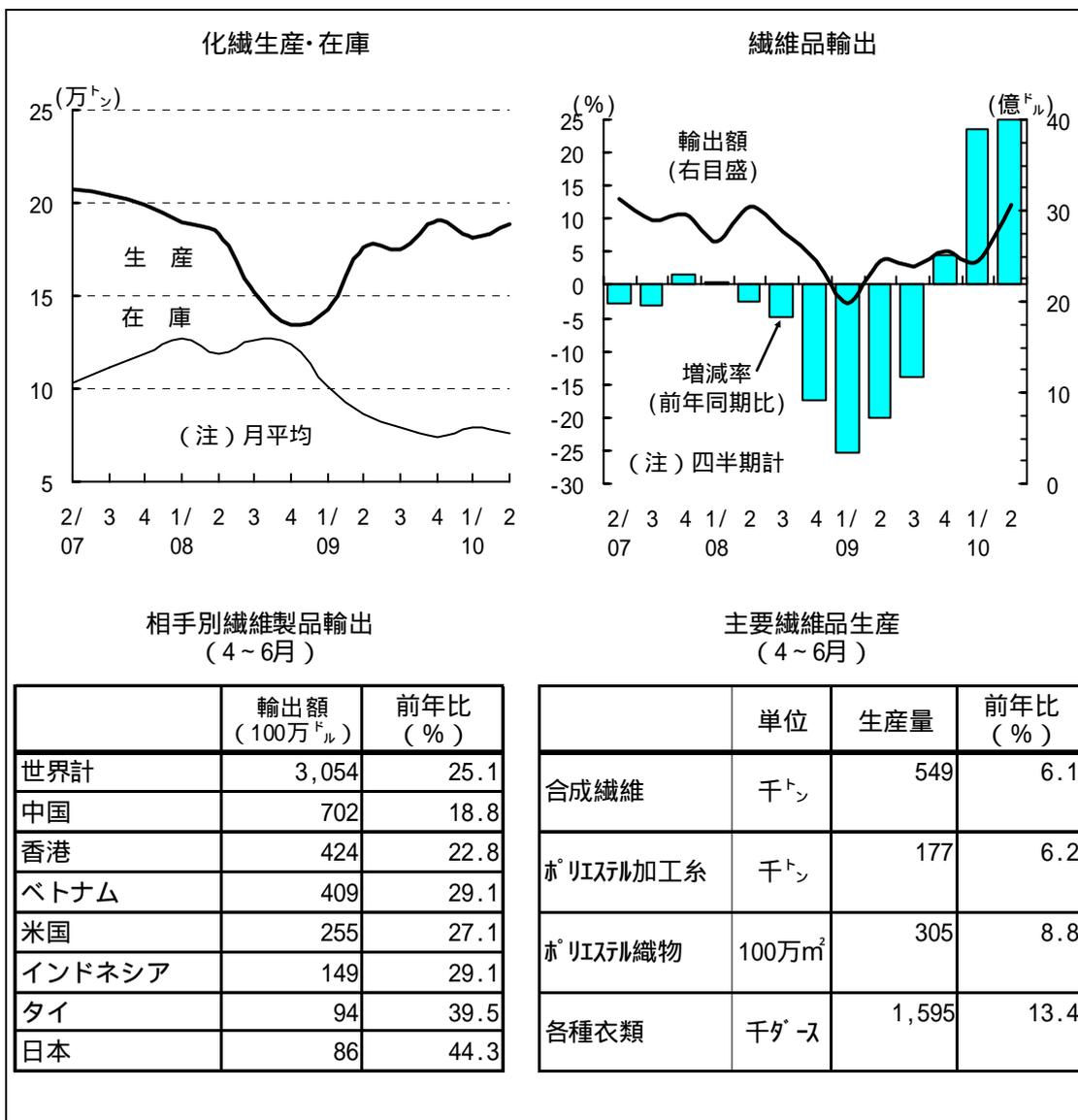
合繊生産、繊維品輸出とも回復傾向が続く。

合繊生産は前年比6%増の36万トンと3期連続の増産。在庫調整も進む。

繊維品輸出は前年比22.2%増の36.8億ドル、3期連続で前年実績を上回る。相手別には、中国、アセアン向けが好調。

7月の繊維品、衣類の生産指数は、前年同月比それぞれ10ポイント、9ポイント改善している。

8) 台湾



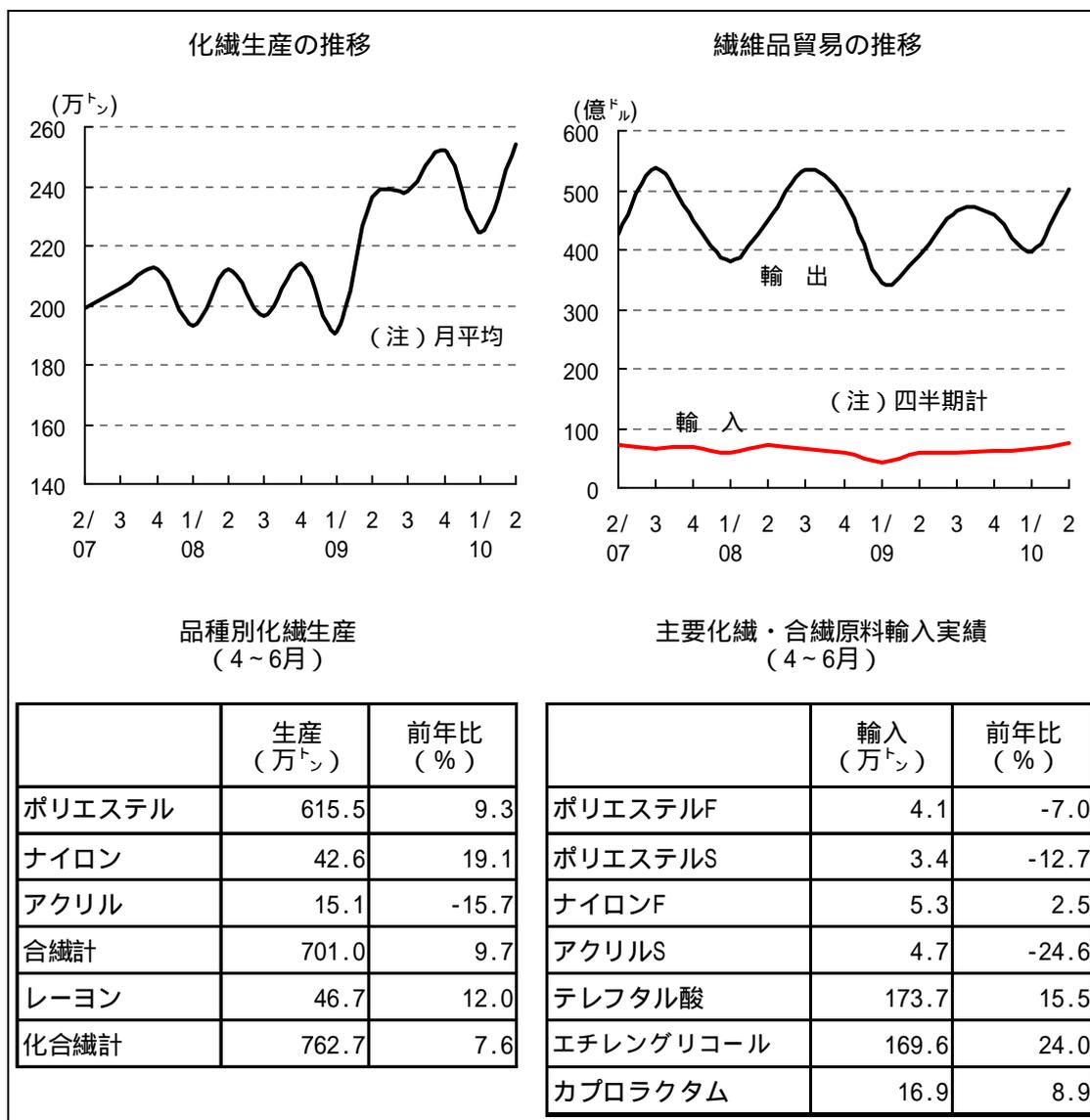
合繊生産、繊維品輸出とも回復傾向が続く。

合繊生産は前年比 6.1%増の 54.9 万トン、4 期連続の増産。ポリエステルを中心に回復傾向が顕著。

繊維品輸出は 25.1%増の 30.5 億ドル、3 期連続で前年実績を上回る。主力の中国向けを中心にいずれの仕向地も大幅増。6 月末に締結した ECFA (両岸経済協力枠組み協議) が台湾の対中繊維品輸出拡大につながる事が期待されている。

主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸、ポリエステル織物が 6.2%増、8.8%増、衣類生産は 13.4%増といずれも増加。

9) 中国



第2四半期の化繊生産、繊維品輸出、内需とも順調に拡大している。

繊維品輸出は前年比 28.4%増の 503 億ドル、2 期連続で前年実績を上回った。一方、繊維品輸入も同 31.0%増の 76 億ドルとなった。

化繊生産は同 7.6%増の 762 万吨、主力のポリエステルは同 9.3%増の 616 万吨、ナイロンは同 19.1%増の 43 万吨と増産も、アクリルは同 15.7%減の 15 万吨となった。

主要化繊および合繊原料の輸入をみると、ポリエステルは国内生産の増加もあって F は同 7.0%減、S は同 12.7%減となった。一方、合繊原料は、化繊生産の増加による原料需給のタイト化から大幅増となった。

| 相手別繊維製品輸出 (1~6月) | | | 繊維業界の主要指標 (1~5月) | | | |
|---------------------|--------------|------------|---------------------|----|--------|------------|
| | 輸出額 (億ドル) | 前年比 (%) | | 単位 | 指標 | 前年比 (%) |
| 世界計 | 913.5 | 22.3 | 企業数 | 万社 | 5.3 | - |
| アジア | 394.0 | 19.1 | 赤字企業数 | 万社 | 0.9 | -14.8 |
| 香港 | 71.0 | 10.1 | 主要業務収入 | 億元 | 16,246 | 27.9 |
| 日本 | 99.7 | 1.5 | 利潤総額 | 億元 | 719 | 61.1 |
| 韓国 | 24.1 | 39.6 | 工業総生産額 | 億元 | 16,865 | 26.6 |
| アセアン | 66.5 | 44.8 | 就業人数 | 万人 | 1,070 | 1.3 |
| EU | 193.9 | 18.5 | 繊維産業実際投資 | 億元 | 650 | 18.9 |
| 米国 | 150.0 | 28.5 | うち化繊産業 | 億元 | 107 | 26.9 |

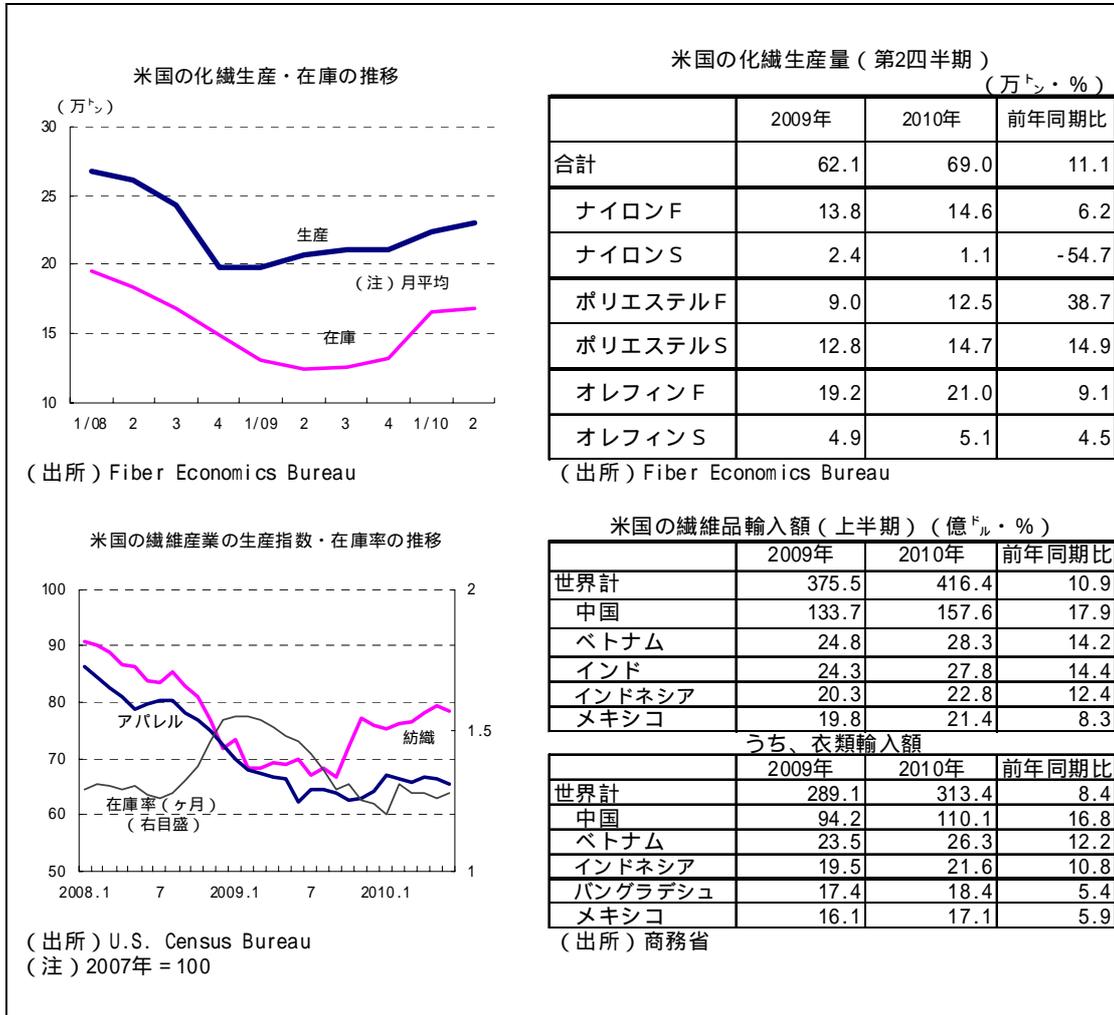
| 全国主要大型小売店の販売額 (1~6月) | | | | 繊維関連物価指数 (2010年6月) | |
|-------------------------|----|-------|------------|-----------------------|--------------|
| | 単位 | 数値 | 前年比 (%) | | 前年同月比 (%) |
| 商品売上総額 | 億元 | 3,216 | 21.5 | 企業物価指数・衣類/帽子/靴 | -1.1 |
| うち衣類 | 億元 | 733 | 24.2 | 企業物価指数・紡織品 | 0.4 |
| 婦人服 | 万点 | 6,609 | 18.5 | 消費者物価指数・衣類 | -1.1 |

上半期の相手別繊維製品輸出をみると、EU、米国向けはそれぞれ前年比 18.5%増、28.5%増と前年の減少から、回復を示した。一方、日本向けは同 1.5%の微増にとどまる。アセアン向けは、2010年1月に中-アセアン FTA に基づき多くの品目で関税撤廃されたことから同 44.8%の大幅増となった。

1-5月の繊維産業の業績、投資に関する主要指標をみると、いずれも回復を示している。主要業務収入は同 27.9%増、利益総額は同 61.1%増となった。欠損企業の比率も大幅に低下している。繊維産業の実際完成投資額は同 18.9%の大幅増となった。

繊維産業の衣料用内需は好調に推移している。1-6月の衣類売上(主要大型小売店)は同 24.2%増の 733 億元。一方で、供給過剰を背景に、物価については、企業物価、消費者物価とも低下傾向が続いている。

10) 米 国



第 2 四半期の化繊生産量は、産資用、衣類用、家庭用（カーペット用は除く）での需要の回復に支えられ、前年同期比 11% 増の 69 万トンとなった。

品種別では、ナイロン S を除く全ての品種で前年同期比増となった。ナイロン S の生産量の大幅減は、Shaw が Columbia, SC 工場での生産を停止したことによるもの。

紡織・アパレル工業は、年初以降、紡織部門の生産指数は回復傾向、アパレル部門の生産指数と在庫率はほぼ横這いで推移している。

繊維品輸入は、需要の回復を背景に、前年同期比 11% 増の 416 億ドルとなった。繊維品全体、衣類ともに、上位 5 ヶ国からの輸入が前年同期比増となった。

11) 欧 州

| 欧州の化繊生産量（上半期） | | | | 欧州の化繊出荷（1～5月） | |
|---------------|---------|-------|-------|---------------|-------|
| | （千トﾝ・％） | | | （％） | |
| | 2009年 | 2010年 | 前年同期比 | | 前年同期比 |
| 化繊合計 | ... | ... | ... | 化繊合計 | 19 |
| ナイロンF産資用 | 41.6 | 56.7 | 36 | ナイロンF産資用 | 48 |
| ポリエステルF紡織用 | 99.4 | 136.9 | 38 | ポリエステルF紡織用 | 27 |
| ポリエステルF産資用 | 43.6 | 69.6 | 60 | ポリエステルF産資用 | 23 |
| ポリエステルS | 237.8 | 317.6 | 34 | ポリエステルS | 22 |
| アクリルス | 253.6 | 290.7 | 15 | アクリルス | 10 |

（出所）CIRFS （注）合計はその他品種を含む

| 欧州の化繊輸入量（1～4月） | | | | | | |
|-------------------|---------|-------|------|-------|-----------|------|
| | （千トﾝ・％） | | | | | |
| 品目 | 数量 | 前年同期比 | うち中国 | 前年同期比 | 中国のシェア・位置 | |
| 化繊合計 | ... | 29 | ... | ... | ... | ... |
| ナイロンFなま糸 | 4.4 | 28 | 0.7 | 26 | 17 | 第2位 |
| 同加工糸 | 5.5 | 9 | 0.9 | 56 | 16 | 第4位 |
| 同産資用 | 14.5 | 52 | 3.6 | 1 | 25 | 第1位 |
| ポリエステルFなま糸（POY除く） | 19.5 | 64 | 4.9 | 112 | 25 | 第2位 |
| 同POY | 10.8 | 49 | 0.4 | 71 | 4 | 第7位 |
| 同加工糸 | 136.9 | 45 | 19.7 | 25 | 14 | 第1位 |
| 同産資用 | 44.8 | 33 | 23.9 | 32 | 53 | 第1位 |
| ナイロンS | 3.4 | 10 | ... | ... | ... | ... |
| ポリエステルS | 149.6 | 20 | 4.2 | 106 | 3 | 第10位 |
| アクリルス | 10.4 | 39 | ... | ... | ... | ... |
| レーヨンF | 3.3 | 39 | 2.4 | 52 | 71 | 第1位 |
| レーヨンS | 9.9 | 7 | 0.5 | -65 | 5 | 第4位 |

（出所）CIRFS

上半期の欧州（西欧＋中東欧＋トルコ）の化繊の主要品目の生産量は、前年に比べて大きく増加。また品目別出荷量（1～5月）も前年比で2桁の増加となり、全体では同19%増と大きな伸びを示した。

主要品種の動向は以下の通り：

- ・ ナイロン：紡織用の需要は好調。カーペット用の需要は低迷しており、INVISTAが欧州生産からの撤退を発表。
- ・ ポリエステル：ステーブルは不織布向けを中心に需要が回復。フィラメントは車両用の需要が回復も、低価格の輸入品が各社の収益性に悪影響を及ぼしている。
- ・ アクリル：2009年末以降、需要が回復。
- ・ レーヨン：他の品種と比べて、需要は堅調に推移。
- ・ ポリプロピレン：他の品種よりも景気後退の影響は軽微であったが、カーペット用フィラメントの需要ははまだ回復せず。

なお、CIRFS（欧州化繊協会）の見通しによると、本年の出荷量は前年比で約8%増。しかしながら、生産量は2008年水準（約440万トﾝ）には届かず、将来的にも、2007年以前の水準（500万トﾝ超）に戻ることはない、と予測している。

1～4月の化繊輸入量は、前年比で29%の増加となった。

3月に韓国・サウジアラビア産ポリエステルSに対するAD（アンチダンピング）措置は撤廃されたが、中国産には継続の是非をレビュー中。また、6月より、中国産ポリエステル強力糸に対する暫定措置（暫定AD税率：0～9.3%）が採られている。

J C F A